船舶事故等調査報告書

平成２２年７月２９日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	２０１０函第５号	
事故等種類	浸水	
発生日時	不明（平成２２年１月２９日　１３時２０分ごろ、浸水を発見した。）	
発生場所	不明（北海道国後島安渡移矢岬（あとい やみさき）の西北西方１８㎞付近で浸水を発見した。） （概位　北緯４４°３０.９′東経１４６°２１.４′）	
事故等調査の経過	平成２２年２月１日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	漁船　第三十一吉定（きちじょう）丸、１９トン ＨＫ２－２２０９４（漁船登録番号）、有限会社丸の野水産、平成３年１０月進水	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定	
死傷者等	なし	
損傷	船底中央部左舷側外板に直径約３㎝の破口	
事故等の経過	本船は、船長ほか７人が乗り組み、本船が先頭となって流氷が散在する国後島沖を、僚船２隻とともに、速力を約５～７ノットに調整しながら南東進した。 船長は、平成２２年１月２９日１３時２０分ごろ、国後島安渡移矢岬の西北西方１８㎞ 付近において、操舵室内のテレビモニターで、機関室内に浸水しているのを発見した。 船長は、急ぎ機関室に赴いたところ、同室内には、自身の脛あたりまで海水が滞留していたため、可搬式の排水ポンプ３台を使用して排水するとともに、無線により僚船及び海上保安部に救助を求めた。 本船は、海上保安部の巡視船の先導を受け、僚船２隻に伴走されながら、自航して羅臼港に帰航した。	
気象・海象	気象：天気　曇り、風力　ほとんどなし、視界　良好 海象：波　海上平穏、流氷多数散在	
その他の事項	本船は、同航する僚船がＦＲＰ製で流氷に対する強度が低かったため、鋼船である本船が先頭となり、流氷域を航行していた。 本船は、流氷域を最低速力に調整して航行し、船底に大きな衝撃を受けることはなかった。 本船は、毎年３～４月ごろ、上架整備及び船底塗装を行っていた。 船底に生じた破口周辺には、腐食痕は見られなかった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし あり あり 本船は、国後島西北西方沖の流氷域を航行中、流氷と接触したため、船底外板に破口が生じた可

		能性があると考えられる。 　本船は、進水から約１８年が経過しており、船底外板の強度が低下していた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が、国後島西北西方沖の流氷域を航行中、流氷と接触したため、船底外板に破口を生じて浸水したことにより発生した可能性があると考えられる。	